

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 17 日
 会場: 東京辰己国際水泳場

ゲームNo. 1

帽子の色 白 鹿児島南高校 5	{	3 - 3 1 - 0 1 - 3 0 - 3 EX. - P. T. -	}	帽子の色 青 金沢市立工業高校 9
天候: 晴れ				審判1: 榎橋 邦広 審判2: 荻野 浩明

戦評

「輝きを胸に 夢をその手に 房総の夏」のスローガンのもと、平成17年度のインターハイが開始された。初戦は11年連続27回目出場の鹿児島南と、23年連続23回目の出場の金沢市立工業の対戦である。

鹿児島南は県内唯一の体育科を持つ総合高校であり、大柄な体格をいかしたプレーと、カウンターが持ち味のチームである。金沢市立工業は平成3年にインターハイ優勝経験があり、フローターを中心に攻撃をするチームである。

1P金沢工業がセンターボールを取って試合開始。5'54"鹿児島南堀脇が2対1のカウンターでゴールを決める。5'21"続けざまに鹿児島南堀ノ内がカットインでゴールを決め2-0。5'05"金沢工業が退水を奪い、入水後4'40"炭田がフローティングからゴール。続けて、4'07"カウンターで炭田が2点目のゴールで同点に追いつく。鹿児島南は3'35"フローターの堂下が力強いシュートでゴール。対する金沢工業もフローター炭田の技ありのシュートで同点に追いつく。このピリオド3-3で終了。両チームともカウンターとフローター中心の攻撃での攻防が続く。

2P開始後4'38"鹿児島南が退水を奪うが金沢工業GK坂元の攻守に阻まれる。お互い決め手がなく、一進一退の攻防が続いたが、51"鹿児島南のレフティー堀脇が左サイドからのパスを受け、右サイドからゴールを決め、4-3鹿児島南リードでこのピリオド終了。

3P開始。引き離したい鹿児島南は幾度とカウンターを繰り出す、シュートまでつながらない。4'32"金沢工業三好がゴール前で相手の前に入り込みシュートしゴールを決め同点に追いつく。対して鹿児島南も堂下がフローティングから相手を背負いシュートしゴールを決め引き離す。3'39"相手の退水から金沢工業炭田がミドルからの同点ゴールを決め、2'36"鹿児島南が下がりのDFをしているところ、うまくパスをまわして後藤が左サイドからワンタッチシュートで逆転。追いつこうとする鹿児島南は堀の内、堀脇がいい形でワンタッチのシュートを放つが、金沢工業GK坂元の好セーブや、バーにはじかれゴールを奪うことができず、金沢工業1点リードでこのピリオド終了。

4P開始。逆転された鹿児島南は6'10"相手の退水から堂下がこん身のシュートを放つがGKの好セーブに阻まれ、続けざま堀脇もシュートを放つが同じくGKの好セーブに阻まれる。両チームとも炭田、堂下という強力なフローターがいるので、下がりのディフェンスで守っているが、金沢工業三好がそのすきをつき、3'34"カットインから前に入り込んでシュートしゴール。2点差とする。たまたま鹿児島南が1回目のタイムアウト。開始後、鹿児島南は退水を奪うが堂下のミドルはずれてしまう。鹿児島南のフローター堂下は非常に力強いが、ゴール前にボールが入ると金沢工業の見事なドロップバックで守られ、シュートまで持ち込むことができない。1'47"守りに入り攻め手がなくなったところで、金沢工業いいタイミングでの1回目のタイムアウト。再開後、金沢工業は2人しか攻めておらず、鹿児島南は攻撃に気持ちが傾いてきたところ、1'39"神子がカットインからダメ押しのゴールを決め試合を決める。42"金沢工業中山がフローティングからゴールを決め4点差をつけ試合終了。

両チームともフローターを中心に攻撃し、組織的に下がりのディフェンスをするチームスタイルは似ていたが、シュートの決定力、ディフェンスの組織力が金沢工業が一枚上手であった。

記録者

岩佐 弘之

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 17 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 2

帽子の色 白 大垣東高校 8	$\left. \begin{array}{l} 2 - 1 \\ 1 - 3 \\ 2 - 1 \\ 3 - 2 \\ EX. \\ - \\ - \\ P. T. \\ - \end{array} \right\}$	帽子の色 青 那覇商業高校 7
天候:		審判1: 大川和二郎 審判2: 岩淵融義

戦評

本日の第2試合は東海ブロックを勝ち上がり2年連続4回目の出場を果たした岐阜県立大垣東高校と、激戦の九州ブロックを2年連続で勝ち上がった沖縄県立那覇商業高校の対戦。両チームは昨年のインターハイでも初戦で対戦し、当時初出場だった那覇商業がインターハイ初勝利を上げている。因縁の再戦、果たして今年度はどうなるか。

1P先制点は那覇商業、5'38"サウスポー興那原が相手ディフェンスのマークが甘くなったところを左45°からミドルを決め先制。大垣東も4'08"小川がカウンターからGKをうまくかわしてゴールを決め同点。2'15"には再び小川がカウンターから得点し大垣東2-1とリード。那覇商業も右サイドにボールを集め積極的に左サイドのクロスを仕掛けるが大垣の必死のディフェンスに阻まれる。

2Pリードされた那覇商業は積極的にクロス攻撃を仕掛け6'14"クロスから切れ上がった我喜屋が鮮やかなワンタッチミドルシュートを決め同点。3'14"にも左サイドのクロス攻撃から右サイドにいた興那原にきれいにリターンパスがとお見事なワンタッチシュートを決め1点リード。那覇商業のプレスディフェンスに大垣東はターンオーバーを繰り返し攻撃のリズムをつかめずにいたが、2'30"キャプテン小林がゴール前で粘って退水を取りパワープレーを自ら決めて同点に追いつく。しかし那覇商業ディフェンスのプレッシャーはきつく、47"中盤でボールをカットされカウンターから山里将太がゴールを決めて那覇商業リードで3Pへ。

3Pになると、互いに勝利への執念を見せ激しい点の取り合いになる。大垣東はキャプテン小林、小川、宮原らがドライブを繰り返しチャンスを作れば、那覇商業はクロス攻撃から再びチャンスを作り一進一退のめまぐるしい攻防が続く。5'44"大垣東は小川の鋭いドライブから退水を取ると、パワープレーから小林がGKの頭上を抜く見事なシュートで同点に追いつく。続けざまに4'59"小川が右サイドドライブから粘ってシュートを決め再び大垣東がリード。ややディフェンスに疲れの見える那覇商業だが1'37"退水を奪うとベンチはすかさずタイムアウト。落ち着いて大事なパワープレーへ。そして1'14"に安里がシュートのこぼれ球をポストからうまく押し込み5-5の同点に追いつき最終Pへ

最終ピリオド。勝利に向け選手はもちろん、監督、コーチの動きも激しさを増す。4'57"まず那覇商業がフリースロー妨害から得たパワープレーを仲村が落ち着いて決めて1点リード。すかさず反撃の大垣東は小川がゴール前でこぼれ球を粘って取り返し退水を奪取すると自ら前に出てつぶしにきた相手GKをかわしてゴールを決め同点。那覇商業も3'56"にフローターの我喜屋が決めて再び1点リード。ここで大垣東白濱監督がタイムを要求。落ち着きを取り戻した選手は再び反撃に転じ、3'30"には小川がこの試合5点目となるサイドからのドライブシュートを決め7-7の同点に追いついた。この後両チームは何度も相手ゴールにシュートを放つも大垣東高木、那覇商業山田両GKの好セーブに阻まれこう着状態に。このまま延長戦かと思われた29"那覇商業ハンドオフの反則からカウンターを仕掛けたのは大垣東小川。そのまま得点しこの試合6点をゲットし大垣が1点リードする。那覇商業は最後のタイムアウトに望みをかけるが痛恨のオフenseファウル。そのまま8-7で大垣東が逃げ切り昨年の雪辱を果たした。

記録者 高野 裕史

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 17 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 3

帽子の色 白 山形工業高校 3 天候: 曇り	$\left. \begin{array}{r} 0 - 3 \\ 0 - 1 \\ 3 - 2 \\ 0 - 3 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 前橋商業高校 9 審判1: 榎本隆 審判2: 木下晃次
--	--	--

戦評

一昨年度のインターハイの決勝戦の再現となった本日の第3試合。北海道・東北ブロックを1位で勝ち上がった山形工業高校対関東ブロックを2位で通過した前橋商業高校との好ゲームが期待される対戦となった。両チームともこの初戦を突破し、勢いに乗りたいたいところである。

第1p立ち上がり一進一退が続く中4'06前商パワープレーから6番エースの柳瀬が先取点。山形も前商の退水を誘発し、パワープレーで攻めるも前商ゴールを割れない中、2'03前商3番柏木ノーマークを決め2-0、続けて'59 2番渡邊にミドルシュートを決められ3-0と前商リードで第1p終了。

第2p両チームとも決め手を欠く中、約4分間の攻防が続いた後、3'03 前商4番五十嵐がパワープレーからこのピリオド初得点。その後も互いに決定打を欠き前半戦終了。前商4-0とリードで折り返す。

攻守のベンチを入れ替えた後半第3p 反撃したい山形はフローターにボールを集めシュートを試みるも、前商のディフェンスになかなかゴールを割れず苦戦が続く中、5'29 前商4番五十嵐 7m以遠でのフリースローからの意表をつくシュートで得点を重ねた。山形はペナルティースローを得、ここで流れを変えたいところであったが、前商GK高橋の攻守に阻まれ未だ無得点。流れは前商かと思われた4'23 山形2番高橋がハンツァーを決め、反撃ののろしを上げる。続く3'30山形7番那須のミドルシュートが炸裂。点差を詰めたい山形は怒濤の攻撃を仕掛け、2'30 2番高橋がフローターから得点。3連続得点により、山形3-5と追い上げる。踏ん張りたい前商は、'32 7番塚越がハンツァーで得点。6-3とし、最終ピリオドへ。

第4P 鉄壁のディフェンスを見せる前商から山形はゴールをあげることができず、逆に、流れをつかんだ前商は4'32 エースの6番柳瀬が強力なフローティングシュートにより点差を広げる。山形もT. O. を取り流れを変えたいところだったが、勢いのついた前商の流れを止められず、1'43 前商3番柏木がノーマークシュートを決め8-3とする。更に'31 パワープレーから2番渡邊が決め9-3とし勝敗が決した。

両チームとも持ち味を出した好ゲームであった。この結果、前商が1回戦を突破し2回戦へ。次の鳥取中央育英高校との対戦も楽しみである。

記録者 高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 17 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 4

帽子の色 白 黒沢尻工業高校 4	$\left. \begin{array}{l} 1 - 8 \\ 1 - 5 \\ 1 - 3 \\ 1 - 7 \\ EX. \\ - \\ - \\ P. T. \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 福岡工業高校 23	審判1: 牧田 和彦 審判2: 折笠 敬一
--------------------------------------	--	--------------------------------------	--------------------------

戦評

黒沢尻工業は平成11年の地元岩手インターハイで初出場をはたし、今回で3度目の出場。全国2位の敷地面積を誇り、弓道、ボクシング、バスケットボール、ボートなどが全国大会に出場するスポーツの盛んな学校である。福岡工業は九州地区1位で予選を通過し、今回で29回目の出場である。過去に2度の優勝経験があるが、昨年インターハイ出場をのがし、悔しい思いをした、選手、監督、スタッフ一同が、この一年間全国制覇を目標に練習に取り組んできた。

1P5'31"福岡工業岸本がカウンターから得点を奪う。対する黒沢尻工業も、相手退水後、センターでノーマークになった及川が5'04"得点し同点に追いつく。4'38"福岡工業の永田祐樹が相手ディフェンスがゴール前に下がっているところ、ミドルシュートで得点。その後、福岡工業は、進藤、進藤、松本、永田天、永田天、進藤と立続けにカウンターで得点を重ね、8-1でこのピリオド終了。福岡工業は激しいプレスからのカウンターで、黒沢尻工業に攻め手をあたえていない。

2P開始直後、福岡工業は退水を奪取し、左サイドの松本からのパスを、ファーサイドのセンター永田天があざやかなタップシュートでゴールを決める。黒沢尻工業もあきらめず、フローターシュート、7mシュートを積極的に狙っていくがなかなか得点には至らない。5'07"福岡工業永田天がミドルシュートを決め10-1とする。点差が開いても諦めることなく積極的に得点を狙っていく黒沢尻工業は、キーパーにカットされたボールをチャージにいき、カットしたボールをつなぎ、藤村が得点を決める。しかし、福岡工業はフローティングから進藤が得点。黒沢尻工業は相手退水からセットを組んでボールをまわすが、福岡工業のゴールの中にディフェンス二人が両手を上げる堅い守りにシュートが打てず、チャンスに得点することができない。その後、福岡工業フローター進藤がまわしこんでのシュート、永田祐樹がミドルシュートを決め、13-2で第2ピリオド終了。

3P6'47"福岡工業深川がカウンターから相手の前に入りキーパーをかわしてシュート。その直後、黒沢尻工業及川がカットインからこの試合2点目のゴールを決める。しかし、福岡工業は深川がゴール前で、進藤がカウンターでゴールを決め、16-3と点差を広げる。5'04"黒沢尻工業及川がゴール前で退水を取り、自らシュートを打つが惜しくもバーの上。1'09"またも黒沢尻工業及川がゴール前で退水を奪取するが、またも福岡工業の堅いゾーンディフェンスにより得点できずにこのピリオド終了。

4P福岡工業ボールからスタートし、深川がカットインから抜け出しゴールを決める。対して黒沢尻工業及川はフローティングポジションから、右サイドからのパスを受けシュートを決める。その後、福岡工業は選手を多く入れ替えながら、深川、岸本、永田天、永田祐樹が得点を重ねる。黒沢尻工業エースの及川も一矢報いようと、フローターからボールを浮かしディフェンスをうまくかわしたが、キーパーに阻まれ得点できず。福岡工業は最後まで気を抜かず、相手退水から下釜、カウンターから下釜とゴールを決め23-4という結果でこの試合終了。

福岡工業は最後までカウンターをだせる衰えない泳力があり、よく練習してきたことがうかがえる。黒沢尻工業も冬場の十分な練習ができない環境のなか、キャプテン及川を中心に、最後まであきらめずに4得点をあげており、今後の活躍を期待したい。

記録者 | 岩佐 弘之

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 17 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 5

帽子の色 白 尼崎北高校 7	$\left. \begin{array}{r} 2 - 3 \\ 0 - 6 \\ 2 - 2 \\ 3 - 5 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 埼玉栄高校 16 審判1: 岩淵 融義 審判2: 荻野 浩明
------------------------------------	--	---

戦評

近畿ブロック代表兵庫県立尼崎北高校は4年連続8回目の出場、18年度の地元国体開催に向けて年々実力をつけており、過去2回の全国優勝、創部より20年連続出場の強豪埼玉栄高校にどのように挑むか。埼玉栄は全国制覇に向けて順調なスタートを切りたいところである。

1P栄はマンツーマンディフェンスからのカウンター狙い、尼北は攻撃側の右0°、45°、トップの位置を下がって守るゾーンディフェンスを敷き栄の攻撃を食い止め得点チャンスをねらいたいところ。先制したのは栄、6'39"伊藤が下がり目のディフェンスをものともせず豪快に右45°からミドルシュートを決め幸先の良いスタートをきった。ところがその後はシュートミスや尼北GK大平を中心とした必死のディフェンスに手を焼き2'56"にようやく虎岩がフローターディフェンスからボールカットしそのまま20mのドリブルシュートを決めた。尼北の反撃は2'17"相手退水からキャプテン中西が決める。栄も虎岩の左45°からのループシュートで突き放しにかかるが、粘る尼北は林の切れのあるドライブからペナルティーを得、それを中西が落ちていて決め1Pは栄3-2の1点リードで終える。

2P何とか自分たちのペースに持っていきたい栄はマンツーマンからトップの選手が下がるゾーンディフェンスを敷きカウンター攻撃でリズムを作る。するとそれが功を奏し伊藤のオーバータイムぎりぎりのミドルシュートから始まり、さらに伊藤、徳江の2得点、志水、木村と次々に得点し試合の主導権を握る。尼北はゴール前に数人フローティングさせ何とか反撃を試みるが得点に結びつかない。

3P栄はさらに尼北のゾーンディフェンスに対して2フローターで攻め退水奪取から志水が決める。尼北もキャプテン中西の個人技で反撃するもののなかなか得点できない。5'44"には中村がパワープレー、3'01"には田村がミドルシュートを決めるも、栄は橋本のカウンターで得点しなかなか点差は縮まらない。

4P最終ピリオド意地を見せたい尼北は必死のディフェンスで栄の追加点を許さない。攻撃の流れを変えようと尼北ベンチは5'16"にタイムアウトをとりサウスポーの黒河内を投入、これがずばり当たり黒河内がパスの基点となり右サイド、左サイドに見事なパスをつなぎ田村がゴール。その後奥田が右サイドから粘りのシュート、中西がパワープレーで得点するなど意地を見せたが、栄は志水、毛利、醍醐が次々と得点を重ね16-7で尼北を退けた。

尼北は最後まであきらめず全員で戦っている姿は高校生らしさを感じた。来年の地元国体に向けてさらにながらんでほしいものである。

栄は順調なスタートを切ったが初戦ということもあり若干シュートミスが目立っていた感がある。名将町田監督がどのように修正してくるか楽しみだ。

記録者 高野 裕史

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 17 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 6

帽子の色 白 高松南高校 3	$\left. \begin{array}{l} 0 - 2 \\ 0 - 6 \\ 0 - 4 \\ 3 - 1 \\ EX. \\ - \\ - \\ P. T. \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 幕張総合高校 13	審判1: 折笠敬一 審判2: 榎本隆
---	--	---	-----------------------

戦評

本日の最終試合ゲームNo.6は、3年連続18回目の出場の香川県立高松南高校 対 初出場地元の千葉県立幕張総合高校との対戦となった。高松南は、水不足でプールが制限される中勝ち取ったインターハイであり、一方、幕総も主力選手が怪我でゲームに出られなかったりと、それぞれ ハンデを乗り越えての本戦となった。

第1P 5'03 高松南のパスミスについて幕総6番広川ノーマークシュートで先制点をあげる。泳力に勝る幕総は、カウンターからノーマークを作るも、ことごとく高松南のGK飯田に阻止され得点に至らず。2'19 幕総7番菊池ノーマークシュートをようやく決め2-0として第1P終了。

第2P 5'49 幕総ドライブスを回し、右45度から6番広川が得点し、連続得点の始まりとなる。幕総は、4'40 10番佐藤のカットインからのシュート、2'11 5番小泉フローターからのバックシュート、1'50 6番広川 カウンターからゴール前でGKをかわしてシュート、1'19 3番橋本ミドルシュート、'37 10番佐藤右45度からシュートとこのP6連続得点で高松南を引き離す。反撃したい高松南だが、幕総の固いディフェンスにシュートまで至らず、流れは幕総のまま前半終了。

第3P 幕総の流れは変わらず、4'49 幕総3番橋本パスカットからノーマークを作りシュート。その後も攻撃の手をゆるめない幕総は、4'27 5番小泉がミドルシュートを決め、10-0となる。高松南も退水を取り反撃するも、幕総キャプテンGK武村の攻守に阻まれ、なかなか得点に至らない。疲れの見え始めた高松南は、幕総のプレスディフェンスにパスを回せず、苦戦を強いられた中 1'19 幕総7番菊池カウンターからシュート、続いて '46 5番小泉のミドルシュートが決まり、12-0で第3P終了。

第4P 3'59 高松南5回目のパワープレーをようやく生かし、3番鎌倉が待望の初得点を高松南にもたらした。幕総も6度目のパワープレーをようやく生かし得点。初得点をあげた高松南3番鎌倉は最後までねばり強く泳ぎ、カウンターから退水を誘発し、1'53 自らノーマークシュートを決め、自身2得点目をあげる。続けざま、1'20 同じく高松南3番鎌倉がゴール前で3得点目をあげたが、このままタイムアップ。最終Pは高松南が意地を見せ、3-1としたものの、最終的には、泳力・シュート力に勝った幕総が13-3でインターハイ初勝利をあげ、ベスト8となり、準々決勝へ進出した。

地元開催で意気上がる幕総の次の対戦相手は未定だが、今後の活躍に期待したい。敗れた高松南も最後までよく健闘した素晴らしいチームであった。

記録者 高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 18 日
 会場：東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 7

帽子の色 白 長浜北星高校 5	{	1 - 4 0 - 5 2 - 0 2 - 3 EX. - - P. T. -	}	青 帽子の色 明大中野高校 12 審判1: 木下晃次 審判2: 槇橋邦広
-----------------------	---	---	---	--

戦評

大会2日目の第1試合 ゲームNO7 昭和56年の千葉インターハイ優勝、7年連続25回目の出場を誇る滋賀県立長浜北星高校 対 優勝回数9回と最多を誇る明治大学附属中野高校との対戦となった。大会2日目だが両チームともこの試合が初戦であり、自分達のリズムに早く乗りたいたいところである。

第1P 両チームとも緊張気味の立ち上がり。各々シュートまでは行くが両GKの攻守により無得点が続中、均衡を破ったのは明中。5'07 パワープレーから5番秋山が口火を切って先制。3'36 と 2'51 には得意のカウンターから6番田村、8番蝦名と立て続けにゴール。明中3-0とリード。一方長浜は、2'25 セットオフENSからパスをよく回し、7番藤林がハンツーを決め1-3とする。明中も再びカウンターから7番榊原がミドルシュートを左隅に決め、4-1と明中リードで第1P終了。ディフェンスからのカウンターという明中らしい攻撃でリズムを作る明中に対して、セットオフENSからシュートチャンスをつかぐ長浜。両チームとも持ち味を出した試合展開の第1Pであった。

第2P開始早々、6'45 明中12番近藤がフローターシュート。5'49 にも再び近藤がフローターから得点。4'44 パワープレーから明中7番榊原が左45度から確実に得点をあげる。4'04 明中11番小山がミドルシュートを決め、点差を広げる。1'39 明中得意のカウンターからゴール前でのクロスボールを4番加久保がタップシュート。明中ペースで展開した第2P。多彩な攻撃を仕掛ける明中はカウンターに加え、セットオフENSからも退水を誘発し確実に得点。一方、長浜もセットオフENSからシュートチャンスを作るも、明中キャプテンGK棚村の好セーブに阻まれ、なかなか得点できないまま前半終了。

第3P 後半開始後暫くの間一進一退が続いた中 3'07 長浜4番キャプテン北山パワープレーからループシュートを決め、流れは長浜へ。1'00 長浜再びパワープレーのチャンスから、10番大橋がGKの頭上を抜いて決める。第3Pは、長浜ペースでゲームは進行。明中このP無得点に終わる。両チームのGKの攻守が光った第3Pであった。

第4P 波に乗る長浜は 5'20 カウンターからパスを回し、7番藤林がミドルループを鮮やかに決め4-9と点差を詰める。すかさず明中、カウンター時の退水を取った直後にT. O. 。パワープレーからじっくり攻めるも、長浜GK三浦の好セーブが得点を許さない。勢いに乗る長浜はカウンターから退水を誘発。3'38 パワープレーから7番藤林得点。5-9と迫る。長浜の猛攻を止めたい明中は、3'09 12番近藤がフローターシュートを決める。第2P以来久々の得点をあげ、10-5とし長浜を引き離しにかかる。流れを取り戻した明中は、得意のカウンターから5番秋山が決め11-5。最後は、パワープレーから明中7番榊原がブザービーターとなるシュートを決め決着。12-5で明中がベスト8へ勝ち上がった。前半は明中の流れ、後半は長浜ペースで展開したが、総合的に勝る明中が粘る長浜を振り切り準々決勝へ進出した。明中の次の対戦相手は未定だが、準々決勝での活躍も楽しみである。

記録者 高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 18 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 8

帽子の色 白 関西高校 6	$\left. \begin{array}{l} 1 - 2 \\ 1 - 2 \\ 1 - 1 \\ 3 - 4 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 津田学園高校 9	審判1: 岩淵 融義 審判2: 牧田 和彦
--	--	--	--------------------------

戦評

関西高校は2年連続34回目(出場チーム中最多)の出場、過去2回インターハイ優勝している水球界の名門チーム。今年度の地元国体開催を控え強化を進め今大会でも上位進出をもくろむ。津田学園高校は2年ぶり4回目の出場、過去には2年連続ベスト4に進出している東海ブロックの強豪チーム。関西の全員水球に対し津田はU-18日本代表の山中、キャプテン田中、佐藤などジュニア時代からのタレントをそろえている。組織の関西、個人技の津田の対決が見所となりそうだ。

1P関西はマンツーマンディフェンスからのカウンター、セットではフローターを置かずドライブ攻撃、対する津田はフローター山中をゴール前に置きじくりボールをまわし、35秒をフルに使って攻める。先制したのは津田4'57"にキャプテン田中が9メートル付近からフリースローをそのままロングシュートし見事に決める。さらに4'10"齊藤が関西ディフェンスの隙をつくトップからのミドルシュートを決める。津田はノーマーク時は積極的にシュートを打ってくる。逆に関西はドライブ攻撃を津田のドライブをケアした間を取ったマークに攻めあぐねている。1'29"にターンオーバーからカウンターを仕掛け退水を取るとすかさずベンチはタイム。しかしパワープレーは津田のGK以外の2人がゴールの中でハンズアップで守るディフェンスに阻まれる。カウンターで何とか活路を見出したい関西は40"松井がカウンターからタップシュートを決め1点返す。

2Pセット攻撃が不発の関西はカウンターから退水を奪い5'47"沓脱が決めて同点に追いつく。これで関西がリズムをつかんだかに見えたが津田はすかさず5'27"に田中が右サイドドライブから相手を回しこみバックシュートを決め突き放す。さらに3'43"またも田中が7メートル外からのフリースローをそのままミドルシュート見事に決める。津田はこのピリオドからさらに関西のカウンターもケアし山中、田中、佐藤を攻撃させ他の選手は早めにディフェンスに帰りその後の失点を防いだ。

3Pあいかわらず攻めあぐねる関西はあせりからかシュミス、ターンオーバーを繰り返す、カウンターも津田にうまく守られ得点できない。津田も得点には結びつかないが山中をゴール前にしっかり浮かせて決して無理はしない、35秒いっぱい使い関西にカウンターを出させない。そんなこう着状態が6分間続いたが1'07"沓脱が左45°からミドルシュートを決め1点差に詰め寄る。しかし津田はまたもや田中がドライブから退水を奪取し、自らパワープレーを決め関西を突き放す。津田は試合巧者ぶりを十分に発揮している。

4P関西は開始早々6'34"3P最後に松井が取った退水を松井自らセンターボールをとりパワープレーからゴール。なんとしても勝つという松井の気迫が伝わりその後中盤からプレッシャーをかけてボールをカットしカウンター、しかし大事なシュートをミスし逆にそれまで良く抑えていた津田山中に5'44"ゴール前で力強いバックシュートを決められ再び2点差に。さらに2'40"田中の技ありのループシュートでついに3点差となる。後がない関西はようやくドライブから退水を取り2'18"松井が決め2点差と追いつけるが、今日大活躍の津田キャプテン田中が大事な場面で2本退水を取るドライブ、その2本のパワープレーを齊藤、佐藤が落ち着いて決め試合を決めた。関西は終了間際に松井が意地の4点目となるミドルシュートを決めるが、9-6で津田が関西を下しベスト8へ。

津田は田中、山中らタレントが攻撃で十二分の働きをしGK太田を中心にしたディフェンスも冴え関西に攻めらしい攻めをさせなかったことが勝因としてあげられる。逆に関西はこの悔しさを9月に開催される地元の国体でリベンジしてもらいたい。

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 18 日
 会場: 東京辰己国際水泳場

ゲームNo. 9

帽子の色	白	鳥羽高校	5	<table style="margin: auto; border: none;"> <tr><td style="font-size: 3em;">{</td><td style="padding: 0 10px;">2 - 2</td><td style="font-size: 3em;">}</td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">0 - 1</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">0 - 2</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">3 - 2</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">EX.</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">-</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">-</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">P. T.</td><td></td></tr> <tr><td></td><td style="padding: 0 10px;">-</td><td></td></tr> </table>	{	2 - 2	}		0 - 1			0 - 2			3 - 2			EX.			-			-			P. T.			-		青	帽子の色
{	2 - 2	}																															
	0 - 1																																
	0 - 2																																
	3 - 2																																
	EX.																																
	-																																
	-																																
	P. T.																																
	-																																
		金沢市立工業			7																												
天候:				審判1:	荻野 浩明																												
				審判2:	木下 晃次																												

戦評

いよいよ昨年度優勝校の鳥羽高校の登場。17年連続17回目の出場で、昨年度も含め4度の優勝経験のある鳥羽と、昨日接戦の末、鹿児島南を下した金沢工業の戦いが始まる。フローターをおかず、回転攻撃で泳ぎ回る鳥羽高校と、フローターを中心に攻撃する金沢工業と、全く違うプレースタイルの対戦である。どちらのチームが自分たちのプレーができるか、また、相手攻撃を防げるかがこの試合の勝敗を左右するであろう。

1P鳥羽ボールで試合開始。予想通り、鳥羽の回転攻撃、金沢工業のフローターとチームカラーのはっきりした攻撃を続けている。先制したのは金沢。5' 25"フローター炭田が相手をまわしこみゴールを決める。一方鳥羽はカットインから左サイドでノーマークになった樋口がシュートを放つが、キーパーに止められる。続いて同じ形から、鳥羽の中野がノーマークになるがシュートはバーの上を越えていく。この決定的な2本のシュートが、今後の展開に大きく影響することになる。しかし、鳥羽は相手退水後、左サイドから高山がバーをえぐるようなシュートで同点に追いつく。その直後、金沢工業フローター炭田の鋭いバックシュートで引き離す。鳥羽は樋口のシュートがはじかれた後の、こぼれ球をうまくコントロールし相手退水を誘発。そのセットで左上でノーマークになった三浦がゴールを決め2-2の同点でこのピリオド終了。

2Pに入ると、金沢は鳥羽のノーファールプレスにより、攻撃の要であるフローターへボールがよい形に入れることができない。また、鳥羽も、攻撃の起点となる右サイドに下がられ、思うように攻められない。監督から”止まるな”との激が飛ぶが、カウンターの後、持ち味であるアーリーオフェンスができずに攻めきれない。このままこのピリオド終了かと、一瞬鳥羽の気がゆるんだ残り' 13、金沢工業中山の7mシュートが炸裂し、3-2と金沢工業リードで2P終了。

3P目鳥羽の回転攻撃が息を吹き返し、再三ノーマークのチャンスを作り出す。そこへパスが回らずシュートへ持ち込めない。そんな中、5' 48"鳥羽の不用意な退水にすかさず金沢工業のベンチが動きタイムアウト。しっかりゾーンを組み、左上の炭田から右中の神子へパスを見事なバックタップでゴールを決め4-2。3' 03"鳥羽の退水から、またも同じ形で金沢工業炭田から神子のホットラインでシュートを決め、5-2と鳥羽を引き離れた。点差を広げた金沢工業は、鳥羽のドライブに対し、うまく下がり攻撃をくい止めている。鳥羽はまたも点を取れないまま、ピリオドが終了。

4P目何とか追いつこうとする鳥羽に対し、開始直後、金沢工業炭田が、フローティングから一度ボールを浮かし相手をかわすと、そのボールをそのままキャッチしシュート。すばらしいゴールを決め6-2と鳥羽を引き離す。ここで諦めない昨年度の覇者鳥羽は、5' 29"相手退水中、左0° から高山がシュートを決める。続けて3' 58"ノータイムで鳥羽幡山が10mから見事なバウンドシュートを決め6-4に追いつく。この勢いのまま鳥羽は2-1のカウンターを出す。キーパーのパスがそれ、味方も気づかず、つぶれてしまう。その直後、3' 17"鳥羽が切り返して痛恨の退水。ここで金沢工業またもいいタイミングで2回目のタイムアウト。退水のセットを落ち着いて組み、パスを回しながら右0° のレフティー林大樹がだめ押しのゴールをたたき込み7-4。その後、金沢工業はディフェンス重視で攻撃には3人しか行かせず、あせる鳥羽は攻めきれず時間だけが過ぎていく。21"鳥羽がタイムアウトを取り、残り4"幡山が意地のミドルシュートを決めるが、時すでに遅し。7-5で金沢工業が逃げ切り、昨年の覇者鳥羽は1試合目に姿を消すことになった。

記録者

岩佐 弘之

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 18 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 10

帽子の色 白 大垣東高校 4	$\left. \begin{array}{l} 2 - 3 \\ 2 - 3 \\ 0 - 3 \\ 0 - 3 \\ EX. \\ - \\ - \\ P. T. \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 富山北部高校 12	審判1: 折笠敬一 審判2: 大川和二郎
---	--	---	-------------------------

戦評

大会2日目の第4試合 ゲームNO10。昨日の1回戦で那覇商を8-7と僅差で下して勝ち上がってきた岐阜県立大垣東校 対 昨年度のインターハイ4位の実績を誇る富山県立富山北部高校との対戦となった。北信越ブロック代表の富山は、この試合が初戦となるが、創部以来初めて部員13名揃い、頂点を目指している。大垣も接戦を制し、意気上がる状態で試合に臨んでおり、楽しみな一戦となった。

先取点は富山。5'42 5番キャプテン武田のゴールで先制。更に、3'52 同じく武田がフローターシュートで2得点目をあげる。すかさず大垣も反撃。3'13 パワープレーから3番キャプテン小林が決め1-2とする。2'10 富山5番武田の3得点目がフローターから決まる。1'02 大垣3番小林 逆サイドからのクロスボールを見事にハンドリングし、シュートを決める。2-3。両チームとも、キャプテンが全得点を叩き出し、譲らないゲームと展開となった。富山GK日水の攻守も光った第1Pであった。

第2p 一進一退の膠着状態が続いた後、富山のオフェンスファールからカウンターを仕掛けた大垣は、きれいにパスをまわし 5'06 5番宮原がタップシュートを決め同点に追いつく。4'04 富山ペナルティスローを得、5番武田が決めて再びリードする。3'31 富山2番池上カウンターから得点し2点差とする。粘る大垣も2'31 5番宮原がミドルシュートを鮮やかに決め、再び1点差に迫る。'11 富山パワープレーから9番布目確実にゴールを決め、6-4と富山リードで前半終了。一時は同点に追いついた大垣だが力強い富山のディフェンスに阻まれなかなか活路が見出せなかった。ペナルティー、パワープレーと確実に得点に結びつけた富山がリードして折り返した。

第3p 後半に入っても富山の鋭い泳ぎが見られ、退水を誘発。5'44 富山6番松岡パワープレーから得点。7-4とする。点差を詰めた大垣もパワープレーからシュートを放つが、富山GK日水の攻守に阻まれ、得点できない。そんな中、2'36 富山7番大井、'23 3番保田のカウンターからの連続ノーマークシュートが決まり、9-4と突き放す。疲れの見え始めた大垣に対して、富山は泳力を生かし、カウンターからの速攻で、ノーマークシュートを着実に決め、点差を広げた第3Pであった。

第4P 5'42 富山9番布目 カウンターからループシュートを決める。3'50 T. O. 後、パワープレーで再開。富山5番武田が決める。1'53 富山5番武田、ゴール前でディフェンスをかわし、鮮やかにループシュートを決める。自身6点目。12-4で富山が勝ち上がった。前半は、両キャプテンのゴールで接戦となったが、後半、やや疲れの出た大垣の間隙について、泳力を生かした富山は、カウンターを連発。守っても固いディフェンスで、大垣の後半の攻撃を完封。着実に力を発揮した富山北部が12-4で大垣東を下した。富山北部は準々決勝へ進出。次の対戦相手は地元の幕張総合高校。白熱した試合を期待したい物である。

記録者 高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 18 日

会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo.

11

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 2 & - & 2 \\ 3 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \\ 2 & - & 2 \\ & \text{EX.} & \\ 0 & - & 0 \\ 0 & - & 0 \\ & \text{P. T.} & \\ 11 & - & 12 \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	鳥取中央育英高校			前橋商業高校
	18			19
天候:				審判1: 牧田 和彦
				審判2: 槇橋 邦広

戦評

2回戦屈指の好カード。今年度由良育英高校から校名変更した鳥取中央育英高校は23年連続出場、昨年まで5年連続今大会ベスト4の強豪チーム。昭和60年以来20年ぶりの優勝を目指す。前橋商業は4年連続30回目の出場の関東の古豪、過去7回の優勝を数え今大会でも狙いはもちろん全国制覇。1回戦では山形工業を9-3と退け順調なスタートをきっている。高校水球ファン期待の一戦。鳥取はサウスポー島、フローター安田、前商は大型フローター柳瀬とたがいにU-18日本代表が攻撃の軸となる。ポイントはお互いのパワープレー、ディフェンスになりそうだ。

1P 前商は伝統のマンツーマンディフェンスで鳥取にプレッシャーをかける。鳥取はやはり柳瀬を警戒して右の0°と45°が下がって守るゾーンディフェンスを敷く。先制点は鳥取6'05"森田がパワープレーを決める。前商もすかさず柳瀬の取った退水をキャプテン五十嵐がゴール。1'39"には再び柳瀬が退水を取り神沢が決める。鳥取も1'09"安田がパワープレーを落ち着いて決める。2-2同点で1P終了。予想どおりの激しい攻防となる。

2P 鳥取がエンジン全開。6'32"秋月が右サイドドライブからループシュートを決め勢いづく、その後前商のシュートミスを狙い怒濤のカウンターを仕掛け4'42"には秋月、3'26"にはキャプテン新玉と続けざまにカウンターで加点し3点差をつける。前商も柳瀬にボールを集め反撃するがシュートが決らず苦戦。ディフェンスが完全に後手に回ってしまった。しかし、2P終了間際の8"前商は左サイドにいた1年生塚越が右サイド柏木からパスを受け見事なワンタッチシュートを決める。

3P 反撃に転じたい前商、それを許すまじと鳥取も必死のディフェンス。一進一退の見ごたえのある攻防が続く。両チームGK鳥取池本、前商高橋の気迫あふれる好セーブが試合を盛り上げる。そして2'44"シュートミスを連発していた大型フローター柳瀬がフローティングから渾身のゴールを決め、さらに2'00"同じく柳瀬がゴール前ですどく逆に動いてパスをもらいシュートを決め前商同点に迫っていく。優勝候補同士の試合はがっぷり四つのままいよいよ最終ピリオドへ。

4P 序盤にお互いパワープレーのチャンスを得るも鳥取GK池本の好セーブ、前商の気迫のディフェンスにより得点に結びつかない。観衆も息を呑んでこの攻防を見守る。試合が動いたのは残り2分まず前商柳瀬がフローティングからゴール。鳥取も安田がゴール前で気迫のバックシュートを決める。しかし1'39"ここまで攻撃の中心だった鳥取安田が痛恨の永久退水でピンチになるが、またしてもパワープレーを防ぐ。そして残り20"前商柳瀬が4点目のシュートを叩き込みついに決着かと思われたが、鳥取はタイムアウトから必死のドライブ攻撃で退水を奪取し、残り7"森田が決め同点に迫いつき試合は今大会初の延長戦へ。

EX1 観客の大歓声の中延長戦が始まる。たがいにカウンターを仕掛け、シュートチャンスを作るが両GKの攻守により得点できずに終了。

EX2 最後の力を振り絞っての見ごたえのある攻防が続くが、両チーム得点できず試合は7-7のままPS戦へ。

PS戦 前商、鳥取両チームとも確実にシュートを決めてゆく。会場全体がシュートが決るたびに大きく歓声が上がリ揺れる。両チームの選手とも人生で1番のプレッシャーを感じながらのプレーが続く。そして鳥取12人目の選手のシュートを前商GK高橋が止めた瞬間会場に歓喜の渦が起こった。

前商が死闘を制してベスト8に進出を決めた。敗れたが鳥取中央育英高校にも拍手を送りたい。高校生らしい本当にすばらしいチームであった。

選手、監督、観客、会場全体がひとつとなりインターハイ、いや水球のすばらしさを改めて感じさせてくれたすばらしい試合であった。

記録者

高野 裕史

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 18 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 12

帽子の色 白 福岡工業高校 7	{ 1 - 5 2 - 4 2 - 2 2 - 3 EX. - - P. T. - }	帽子の色 青 秀明英光高校 14 審判1: 大川和二郎 審判2: 榎本 隆
-------------------------------------	---	---

戦評

秀明英光は昨年度鳥羽に決勝で敗れはしたが、今年も関東大会優勝、日本選手権出場等、実力経験ともに高校水球の中では突出しており、優勝候補の筆頭にあげられている。一方、福岡工業は九州No1というプライドをかけ、関東No1の秀明とどう戦うか、意地とプライドをかけた戦いである。

1P秀明ボールでゲームが始まる。スタート直後から潜っていた秀明浜田に福工気づかず、あわてて後ろからDFするも退水。そのまま浜田がボールをもらいゴール。こういった”何か”をしてくれるのも秀明の特徴である。その後、3-2のカウンターで染谷、フローターから山口がゴールを決め3-0と秀明がリードする。3'05”福工は相手退水のチャンスに右0°から大きく振られたパスを、左0°松本がシュートを決め、1点返す。しかし、秀明の猛攻は続き、2'04”フローター山口が相手を背負い倒れながらもシュートを決め、1'09にはカウンターから乙女がゴールを決め、このピリオド5-1で終了。圧倒的な泳力と高い個人技で得点を重ねていく秀明に対し、福工も泳力では負けておらず、幾度とカウンターを繰り出しているが、なかなか得点には結びつかない。

2Pは福工のカウンター、進藤からのパスを松本が上手く押し込み2点目を奪う。秀明も相手退水中、左0°若松が体を浮かし強烈なシュートを放つが福工富岡の好セーブ。しかしリバウンドを取った秀明は右0°染谷がDFの手をはじき飛ばしシュートをねじ込む。福工も負けじとエース、フローターの進藤がきれいなバックシュートを決め3点目を奪う。その後秀明は、浜田がカウンターから2本続けてゴールを決め、フローター若松も大柄な体で相手をはじき飛ばしゴールを決め9-3としこのピリオドが終了。

3P目、まだまだ諦めない福工は、5'42進藤が右サイドで懸命にボールをキープしているところ、カットインから前に抜け出した深川への絶妙のパスでゴールを決める。直後、秀明の浜田が左45°から上手くまわしこみ、相手の前に入りループを決める。福工は進藤、深川の2人がフローターに入り、攻撃しているところ、3'15深川がバックシュートを決める。対して秀明はカウンターから左45°でノーマークになった染谷が、素晴らしい足さばきでフェイクをしながら移動し、キーパーのタイミングをはずしゴールを奪い、3P終了11-5。泳ぎでは決して引けを取らない福工だが、カウンターからの得点がとれないと、なかなか点差は縮まっていけない。

4P目、秀明は豊田のフローティングからのフックシュート、若松の10mからのロングシュートで2点をもぎ取ると、大幅に選手を入れ替える。やはり選手層の厚い秀明はスタメンと遜色のないプレーを見せてくれる。福工も最後の意地とばかりに、進藤がフローティングからバックシュート、起きあがったの力強いシュートと2本ゴールを決めたが、14-7でゲームが終了した。

秀明は泳力・テクニックが非常に秀でており、予想通り優勝候補の筆頭にあげられそうである。

記録者 岩佐 弘之

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 19 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 13

帽子の色 白 金沢市立工業高校 3	$\left. \begin{array}{ccc} 1 & - & 5 \\ 1 & - & 1 \\ 0 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青 帽子の色 埼玉栄高校 7	審判1: 折笠敬一 審判2: 槇橋邦広
---------------------------------------	--	------------------------------------	------------------------

戦評

大会3日目 いよいよ大会も後半に入り、ベスト8の激突となる。本日の第1試合ゲームNO ⑬は、鹿児島南、鳥羽と強豪を次々と撃破して勝ち上がってきた金沢市立工業高校 対 尼崎北をダブルスコアで下し、優勝に照準を合わせている埼玉栄高校との対戦となった。両チームとも過去に優勝経験があり監督の采配を含めて楽しみな第1試合である。

第1P 立ち上がり、最初の攻撃でセットを組んだ栄は 6'31 6番伊藤がゴール右隅にミドルシュートを決め先制した。5'10 栄7番志水 フローターシュートで得点。2'25 同じく栄の志水がパワープレーから確実に得点し、3-0とする。1'27 栄3番醍醐 セットからドライブをかけ、速いパスからのハンツァーを決め、4-0とリードを広げる。1'08 金工2番キャプテン炭田がフローターからループシュートを決め、金工に初得点をもたらす1-4とする。すかさず、'45 栄5番徳江セットから強烈なシュートを決め、再び4点差とする。栄ペースでゲームが進行した。栄は、固いディフェンスからカウンターを仕掛け、金工GK坂元の攻守に阻まれた後も、セットを組んで攻撃し、素早いパス回しからシュートを決めた。一方、金工はなかなかペースをつかめず、栄の固いディフェンスを崩せずに終わった1Pであった。

第2P 互いにチャンスを生かせず一進一退が続いたが、4'01 金工2番炭田が第1Pと同じようなループシュートを決める。2'45 栄カウンターから6番伊藤が決める。金工もようやくリズムをつかみ、固い栄のディフェンスに対して、スクリーンを使ったりドライブを仕掛けたりして崩し、ボールがフローターに入るようになった。栄は、カウンターを多発するも決め手を欠き、このPは1-1の同点で終わる。前半を6-2と栄リードで折り返す。

第3P お互いに、相手ディフェンスを崩せないまま、膠着状態が長い間続いた。栄は、中盤での退水を取った後、T. O.。監督の指示の元、確実にパワープレーから得点したいところであったが、金工GK坂元の好セーブに得点を許してもらえなかった。'40 今度は金工が退水奪取後にT. O.。金工も監督の指示を受け、立て直したい所であったが、栄同様パワープレーからも得点できず。両チームとも決め手を欠き、互いにリズムをつかめず、流れをつかもうと取ったT. O. も残念ながら得点には結びつかず、両チームとも無得点で終了した第3Pであった。

第4P 長い膠着状態の後、退水奪取を機に栄2度目のT. O.。今度こそと思われたが、またしてもパワープレーからもシュートが決まらない。一進一退が長時間続く中、互いに退水は取るものの、決定打を欠いた中、第2P以来の長い均衡を破ったのは金工。退水時にT. O. を取り、落ち着いたボール回しから、1'16 5番宮下が得点を入れた。徐々にスコアが動き、3-6と追い上げた。栄も '14 最後の力を発揮し、カウンターから4番橋本がシュートを決め勝敗が決した。7-3で埼玉栄がベスト4へ進出した。第2P以降は、すべてのピリオドが同点でゲームが進んだ。結果的には、第1Pに上手に流れをつかんだ栄が勝ち進んだ。金沢市立工業は、第1Pにリズムに乗りきれなかったことが痛い結果となった。栄は、次の準決勝でどれだけ立て直してくるかが楽しみである。栄の本来の力は、まだまだこれから発揮されるものであると期待している。

記録者 | 高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 19 日
 会場：東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. **14**

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{ccc} 0 & - & 1 \\ 1 & - & 2 \\ 3 & - & 1 \\ 1 & - & 2 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	幕張総合高校		富山北部高校	
	5		6	
天候:			審判1: 大川和二郎	
			審判2: 岩淵 融義	

戦評

大会3日目、初戦、高松南を13-3で敗りインターハイ初勝利をあげた幕総は、地元開催ということもあり、多くの声援が送られ、選手たちもそれに応え、初出場ベスト4入りを果たしたいところ。同じく大垣東を12-4で敗った富山は、2年連続3回目のベスト4入りを勝ち取り、初優勝につなげていきたいところである。

1P立ち上がり、富山はカウンターを幾度と繰り出すが、幕総の攻守もあり、なかなか得点には結びつかない。幕総は富山のプレスに対し思うように攻められず、一進一退の攻防が続く。そんな中幕総の5-4のカウンター、右0°でノーマークになった菊池がシュートを放つも、富山のGK日水に止められる。逆に1'35富山は6-5のカウンターから、上でノーマークになった保田が有望のゴールを決める。両チームディフェンスがよく機能しており、お互いの様子を伺う第1ピリオドとなった。

2P目の立ち上がり、幕総は退水を奪うもセットを組む前にカットされ、チャンスをもにできない。その後両チーム幾度とシュートを放つが、GKの好セーブに阻まれなかなか得点できない。試合が動いたのは3'21、幕総がフローターを警戒し下がっているところ、右0°でノーマークになった富山の松岡がGKの脇下を抜くシュートで2-0。続く2'33富山のカウンター後、ディフェンスが押し込まれたところ、上でノーマークになっていた保田が、この日2点目となるミドルシュートを決め3-0と引きなはず。ここで離されるわけにはいかない幕総は、残り'38小泉がカウンターで一人抜け出し、ディフェンスを背負いながら、GKが前にしようとしたところを技ありのナックリングシュートで1点を返す。3-1と富山リードでこのピリオドが終了するが、この試合まだまだどうなるかわからない。

3P開始直後、幕総フローター広川がゴール前から左へ切れたところ、タイミングよくパスが出され、ディフェンスがあたりにいくも、うまくかわし前に入り込みゴールを決める。これで3-2と1点差に追いついた。しかし富山はゴール前で退水を奪うと、左上松岡が、中の池上へとパスをだし、そのままタップシュートでゴールを決め、また2-4と幕総を引き離す。まだまだ諦めるなど次第に大きくなってきた声援に、1'28幕総の小泉が、ゴール前でチャンスメイクで動いている池上をおとりに、ミドルシュートを決め1点差。続く'48、幕総3-2のカウンターから真ん中で抜け出した佐藤が、会心の同点ゴールを決める。リズムに乗ってきた幕総は、またもカウンターから抜け出した菊池に、富山たまたま残り2秒で退水。観客の大声援でピリオド終了のブザーも聞こえないほど盛り上がってきた。

同点で迎えた最終ピリオド、富山の退水からの開始であり、なんとしてでもマイボールから攻めたい幕総であったが、富山の池上がスピードをいかしセンターボールを奪取する。6'08幕総の不用意な退水から、富山の太井が右上からGKの手に当たるもシュートをねじ込み、富山1点リード。ここで離されたくない幕総は、4'28左45°の広川から、ゴール前の小泉にパスが出たかと思うと、なんと小泉はそのままリレーシュート！ここにきてスーパープレーが飛び出した。同点に追いつき、会場はわれんばかりの声援に包まれる。試合巧者の富山は同点に追いつかれても落ち着いており、3'35キャプテン武田が左45°から技ありのループシュートを決め、幕総を引き離す。まだ、残り時間はあるが、疲れの見える幕総は、残り1'06となったところでタイムアウト。ここで点を取りたい幕総だが、富山のプレスディフェンスに阻まれカットされてしまう。残り'30を切ったところで幕総の攻撃。最後の力を振り絞って橋本、広川、菊池がカウンターを繰り出すが抜け出せない。そこで残り'17幕総タイムアウト。こうした切迫したゲームは試合終了するまで何が起こるかわからない。再開後、ゴール前で粘る広川に富山たまたま退水。最後のチャンスにシュートを放つも、ディフェンスの手に当たり試合終了。

両チームとも実力が拮抗し、ディフェンス力も安定しており、どちらが勝ってもおかしくない試合だった。富山は2年連続ベスト4進出となった。

記録者

岩佐 弘之

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 19 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. **15**

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 1 - 5 \\ 1 - 2 \\ 1 - 5 \\ 3 - 1 \\ EX. \\ - \\ - \\ P. T. \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	津田学園高校			秀明英光高校
	6			13
天候:				審判1: 榎本 隆 審判2: 荻野 浩明

戦評

津田学園は初戦快心のゲーム運びで関西高校を9-6で下し、秀明英光は九州NO1の福岡工業を14-7と退けてのベスト8進出。津田は山中、田中ら攻撃陣がいかに秀明ディフェンスを切り崩すがポイント。秀明は優勝候補NO1のプライドにかけて試合巧者の津田を撃破し優勝に向けて勢いに乗りたいたいところである。ジュニア経験者が豊富な両チーム、お互いのハイレベルな個人技も見所である。

1P津田は関西戦同様全体的に下がって守るディフェンスを敷くが、6'28"秀明若松に先制ミドルシュートを決められる。秀明は続けざまに5'02"浜田が右サイドからパスを受けワンタッチシュート、さらに4'19"にも若松がカウンターからゴールを決め序盤で完全に主導権を握る。反撃に転じたい津田だが山中、田中ががっちりマークされ、なかなかボールがこない。逆に秀明は1'34"、1'06"に得たペナルティーを山口、若松がきっちり決めて0-5。なんとかしたい津田は40"に田中がゴール前で粘ってゴール。1-5で1P終了。

2P津田はうまくパス回しをして山中、田中にボールを集めだしシュートチャンスを得るも、ゴールすることができない。しかし、4'39"に山中がゴール前からゴールを決めようやく自分たちのペースに持ち込む。ディフェンスも落ち着きを取り戻し、秀明のパスミス、シュートミス等もあり追加点を与えない。しかし試合巧者秀明は残り1分で山口、豊田がゴールを決め粘る津田を突き放す。

3Pややミスの目立つ秀明だがピリオド間にはしっかりと修正してきた。しっかりとディフェンスしてカウンターからチャンスをつかむ自分たちの本来のスタイルを取り戻し、山口、染谷、若松、浜田が次々と得点を重ね2-12と津田を引き離す。意地を見せたい津田は山中がゴール前で踏ん張り退水を誘発すると、川道がパワープレーを決めて1点返す。

4P最終ピリオド津田が最後の反撃。6'32"に川道がミドルシュート、4'39"には田中のドライブから退水を誘発し、山中がセットからバックタップを決め、3'04"には再び山中が3点目のゴールをフローティングから決める。しかし秀明はそつなく加点し6-13で試合終了。

敗れはしたが津田学園は十分持ち味を出し善戦。特に山中、田中のコンビは秀明を苦しめた。国体での巻き返しに期待したい。秀明は優勝候補の呼び名のおりの落ち着いた試合運びでベスト4進出。優勝まであと2つ。

記録者

高野 裕史

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
(第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 19 日
会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 16

帽子の色 白 前橋商業高校 8 天候:	$\left. \begin{array}{l} 2 - 1 \\ 2 - 1 \\ 0 - 2 \\ 4 - 2 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	青 帽子の色 明大中野高校 6 審判1: 牧田和彦 審判2: 木下晃次	
---	--	--	--

戦評

ベスト4の最後の座をかけた本日の第4試合 ゲームNO⑯は、関東の強豪同士の対決となった。過去7度の優勝を誇る群馬県立前橋商業高校 対 9度の優勝を成し遂げている明治大学付属中野高校 との対戦となった。前商は、昨日の鳥取中央育英とのペナルティー合戦にまでもつれこんだ激戦を制し、意気上がっている。明中は、長浜北星を一蹴し、順調な滑り出しを見せた。両チームとも優勝に至る上で、越えねばならない難関のひとつと思われる。関東春季でも関東大会でも対戦がなく、今シーズン初めての対戦である。前商6番フロッターの柳瀬 対 明中GK棚村との対決が見所である。白熱した試合が期待できる。

第1P 先制点は明中。4'15 2番町田がフロッターからゴールマウスをこじ開ける。すかさず 3'46 前商2番渡辺 ドロップバックの明中ディフェンスに対して、トップからミドルシュートが炸裂。すぐに同点に追いつく。2'59 同じパターンで前商2番渡辺がゴールを決め、前商2-1とリード。その後、両チームとも退水を取るが決められず、そのまま第1P終了。両チームとも持ち味を出した、予想通りの白熱した展開となった。

第2P 6'01 明中のミドルシュートを前商GKがはじいたところを、明中5番秋山が同点に追いつくシュートを決める。4'12 今度は前商、シュートのこぼれ球を6番柳瀬が決め、再び前商3-2とリード。2'49 前商右45° から3番柏木が決め、リードを2点とし、第2ピリオド終了。前商は、明中のドロップバックの際、ミドルシュートが決まった一方、明中は、フロッターバックの固いディフェンスに手こずり、シュートチャンスが作り出せないまま、前半が終了した。

第3P 4'20 明中 パワープレーから、7番榊原が得点。3-4とせまる。明中 カウンターから、2番町田がノーマークシュートを放つが、前商GK高橋が好セーブ。しかし、このこぼれ球を同じ町田がバックシュートで決め、再び4-4の同点に追いつく。すかさず、前商はT.O.。指示を徹底する。第3Pは、明中GKキャプテン棚村の攻守が光り、前商の攻撃を0点に抑え、同点のまま終了。決着は最終Pへ。

第4P 両ベンチ、両応援席ともに白熱して迎えた第4P。5'35 前商2番渡辺がミドルシュートを放つ。明中ディフェンスに当たるも、ボールは明中GK棚村の頭上を越え、ゴールイン。明中にとっては、アンラッキーであった。4'09 前商2番渡辺のトップからのシュートが決まり、6-4と突き放しにかかる。3'40 明中もパワープレーから、2番町田が決め5-6と肉迫。3'21 前商はエース柳瀬にボールが渡り、鮮やかにゴール。7-5とする。流れは、前商に傾きかけたかと思われたが、2'11 明中 パスカットからカウンター、2番町田が確実に決め、1点差に再度詰め寄る。見応えのある攻防が続いた後、'52 前商6番柳瀬が力強くゴール。明中は、この点差を詰め切れず、前商が接戦を制し、ベスト4へ進出した。両チームとも、最大限力を発揮した、予想以上に白熱したゲーム展開であった。勝ち上がった前商は、準決勝で秀明英光と対戦する。関東大会決勝の再現であり、前商はこの勢いに乗って雪辱を期したいところである。僅差で敗れた明中も、国体東京代表の選手を多く抱えているので、9月の国体での活躍を期待したい。両チームとも、鍛え上げられた素晴らしいチームであった。

記録者 高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 19 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 17

帽子の色 白 埼玉栄高校 3	{ <table style="margin: auto; border: none;"> <tr><td style="padding: 0 5px;">0</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">2</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">1</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">1</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">0</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">3</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">2</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">1</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">EX.</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">P. T.</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">-</td></tr> </table> }	0	-	2	1	-	1	0	-	3	2	-	1	EX.			-			-			P. T.			-			青 帽子の色 富山北部高校 7	審判1: 榎橋 邦広 審判2: 榎本 隆
0	-	2																												
1	-	1																												
0	-	3																												
2	-	1																												
EX.																														
-																														
-																														
P. T.																														
-																														
天候:																														

戦評

準決勝に勝ち進んだ4チーム中、3チームが関東ブロックというなか、唯一北信越ブロックから抜け出した富山が、関東勢をいかに打ち崩すか。両チームとも、本日ダブルヘッダーの2試合目となるが、栄は1試合目の金工に危なげなく勝ち、余力を残していると思われる。一方、富山は1試合目、地元の幕総と1点差の好ゲームを制し勝ち上がってきた。どちらが決勝へ進むことになるのか。

1P目先制したのは富山。左45°から武田がループシュートを放ち、バーに当たり跳ね返ったボールを右サイドの松岡が取り、5'56ループシュートを決める。栄は5'39、強力フローター志水が退水を奪い、虎岩が左0°からシュートを放つが富山GK日水に止められる。逆に富山はカウンター中に退水を奪うと、左0°武田が体を大きく浮かし確実にゴールを決め2-0とリードを広げる。その後、栄は退水を奪うが、またもシュートが決らず、1'38ペナルティーシュートノチャンスを得る。しかしここでも富山GK日水のナイスセーブに阻まれる。このピリオド、栄は3度の退水、ペナルティーのチャンスをもものにできず、無得点となってしまふ。

2Pは、富山の武田、栄の志水と両フローターを中心に攻撃を仕掛けるが、なかなか得点に結びつかない。栄は虎岩、醍醐といい形でシュートまで持っていきが、相手ディフェンスやGKに防がれてしまふ。そんな中、富山は1'20ノータイムで、苦しい体勢から放った武田のループシュートが見事に決まり3-0とリードを広げる。なかなか点の取れない栄は3度目のパワープレーのチャンスに、右0°志水がフェイクでディフェンス、GKを振り落とし残り'24、待望のゴールを決め、3-1でこのピリオド終了。

3Pまだまだ勝負はどうなるかわからない。5'37栄は志水のフローティングから退水を奪取し、パワープレーのチャンスに橋本がミドルを放つが、バーにはじかれて外へ。栄は続く4'11にもパワープレーのチャンスを得るが、痛恨のパスミス。栄は3'28にまたも退水を奪ったところで、町田監督がタイムアウトを取る。今度こそ確実に決めたいところ、右0°から中へ絶妙のパスが出たのだが、バーの上へシュートはずしてしまふ。ピンチの後にチャンスあり。富山は2'41、上からパスをもらった左0°の松岡が、ワンタッチシュートでゴール。続く1'59、左45°大井がループシュートを決める。さらに、富山のカウンターでディフェンスが押し込まれ、上でフリーになった保田がミドルを決め6-1とリードを広げる。残り'21、富山の武田が粘り強いフローティングから退水を奪ったところで、富山がタイムアウトをとる。確実に決めたいところだが、栄GK和田がなんとか守りきり、このピリオド終了。

4P開始6'08、栄はフローター志水が退水を奪いチャンスを作るが、左0°虎岩のシュートは、またもGK日水に止められてしまふ。しかし、栄のカウンターがやっと出始め、5'24志水がゴールを決める。その後も栄はカウンターを幾度と繰り出すが、シュートチャンスにはつながらない。1'35左0°からフローターへのパスを志水がワンタッチでゴールを奪い6-3と追いつくも、残り'46センターでノーマークになった富山の保田がゴールを決め7-3とし、試合終了。

栄は7回のパワープレーのチャンスに1点しか取れず、ペナルティーシュートも決らず、得意のカウンターも富山ディフェンスにうまく守られ、リズムがくるったのが今回の敗因であろう。

富山は8回目の出場で、初の決勝進出である。決勝ではこういった戦いを見せてくれるのか楽しみである。

記録者 岩佐 弘之

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 19 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. **18**

帽子の色	白	$\left. \begin{array}{r} 2 - 3 \\ 1 - 3 \\ 1 - 4 \\ 2 - 3 \\ EX. \\ - \\ - \\ P. T. \\ - \end{array} \right\}$	青	帽子の色
	前橋商業高校			秀明英光高校
	6			13
天候:				審判1: 牧田 和彦
				審判2: 折笠 敬一

戦評

関東勢同士の対決となった準決勝第2試合。前橋商業は準々決勝で明大中野を8-6の接戦で下し、秀明英光は津田学園を13-6で一蹴しベスト4へ進出してきた。ともに優勝するためには最大の難関であり事実上の決勝戦となるであろうこの試合に両チーム応援団も試合前からヒートアップ。ここ数年のインターハイでは前商が優勝した平成15年に5-3で前商。昨年は2回戦で対戦し10-5で秀明が勝利。今年に入って秀明は公式戦ではすべてダブルスコアで前商を下している。この大舞台で前商の雪辱なるか。それとも秀明が貫禄を示すのか。ポイントは秀明のスピードある多彩な攻撃に、前商が大型フローター柳瀬を軸にどう対抗するか。互いのディフェンスが勝利への鍵となる。

1P前商は秀明フローター若松に渡辺を徹底マークさせるマンツーマンディフェンス。秀明はやはり前商攻撃のキーマン柳瀬にボールを触らせないように右0°を完全に引かせるゾーンディフェンスを敷きGK森脇にすべてを託す。先制したのは前商4'24"にすばやいボール回しから柳瀬がゴール前で退水を取り自らパワープレーでゴール。しかし、秀明もすかさず4'09"若松がフローティングから力強いシュートを決め同点。前商1'42"退水からパワープレーのチャンスを得るもシュートミス、秀明はそれを逃さずカウンターから若松がミドルを決めあっさり逆転。さらに19"にも浜田がカウンターからゴールを決める。反撃したい前商は残り1"に柏木が右0°からGKの脇下を打ち抜き1点返し2-3で終了。さすがに秀明のカウンターは鋭い。

2P前商は秀明の下がり目のディフェンスになかなかゴールを割ることができない、しかしゴール前柳瀬にボールが入りすかさず退水奪取。それを5'45"に自ら決めて3-3の同点に追いつく。さあここから前商の反撃かと思われたが秀明は落ちていてディフェンスをして前商のミスを誘い次々にカウンターを繰り出す。4'47"には浜田、3'53"には山口、1'17"には若松がカウンターから得点。前商は秀明の早い動きについていけず中盤で何度もマークミスをして失点を繰り返す。たまたま前商本宮監督がタイムアウト、指示を出すのが流れを変えることができない。

3P前商はセット攻撃を修正して1年生塚越をゴール右ポスト付近に浮かせ、2フローター状態にして劣勢を挽回しようとするがうまく機能せず、次々に秀明山口、乙女、若松、浜田のカウンターが決る。前商も必死にプレッシャーをかけるが秀明は正確にゴールを打ち抜く技術の高さを見せる。前商は柳瀬が2'36"にゴール前からゴールを決めるのが精一杯。秀明が実力通りじわじわと点差を離し、ついに4-10と差を6点に開く。

4P後がない前商は立ち上がりから激しくファウルディフェンスを繰り返し攻撃につなげようとするが逆に6'17"秀明若松にパワープレーを決められる。5'58"には柳瀬がペナルティーを決めるが、秀明浜田にパワープレーを決められる。意地を見せたい前商、必死に秀明の攻撃を食い止め5'17"には柏木が0°からゴール。しかし秀明は3'04"山口が技ありの回しこみからゴールを決め前商にとどめをさした。

前橋商業はまたしても秀明を攻略できず敗退したが、最後まで試合をあきらめない前商魂を最後まで観客にアピールした。明日は3位決定戦で埼玉栄と対戦する。秀明英光は2年連続決勝戦進出。今までのミスをしっかりと修正しまった隙のないチームに仕上がった。昨年の雪辱を晴らすべく富山北部高校との決勝戦にのぞむ。4年ぶりの全国制覇まであとひとつ。

記録者 高野 裕史

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 20 日
 会場: 東京辰己国際水泳場

ゲームNo. **19**

帽子の色	白	$\left\{ \begin{array}{ccc} 0 & - & 2 \\ 4 & - & 3 \\ 2 & - & 3 \\ 2 & - & 0 \\ & \text{EX.} & \\ 0 & - & 1 \\ 0 & - & 0 \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right.$	青	帽子の色
	埼玉栄高校		前橋商業高校	
	8		9	
天候:	晴れ		審判1:	楨橋邦広
			審判2:	折笠敬一

戦評

いよいよ大会最終日を迎えた。本日の第1試合ゲームNO⑱ 3位決定戦は、埼玉栄高校 対 群馬県立前橋商業高校 という関東勢同士の対戦となった。昨日の準決勝で惜しくも破れはしたものの、気分を一新して本日の3位決定戦に臨みたい両チームである。ディフェンスからのカウンター、セットからの攻撃と多彩なプレイを披露してきた両チームであり、最終日の3位決定戦を飾るにふさわしい楽しみな一戦である。

第1P 開始早々前商が退水を奪うも、栄がよく守り得点には至らず、栄もフローター4番の志水がシュートを放つが決まらない。一進一退の攻防の後、3'56 前商6番エース柳瀬がフローターから力強く先制。1'14 同じく前商6番柳瀬がフローターから決め、2-0とする。栄もシュートチャンスはあるものの、前商ディフェンスから得点をあげられず、第1P終了。両チームともに持ち味を出した攻撃を見せたが、決定力でやや前商が上回った第1Pであった。

第2P 5'38 栄パワープレーから、2番キャプテン虎岩が前商ゴールをこじ開け、1-2と迫る。5'11 前商はセットオフenseからパスをよくまわし、5番神沢が左45° から決める。続けて4'25 前商パワープレーから、4番キャプテン五十嵐がゴール。4-1。すかさず 3'56 栄もパワープレーから7番志水が決める。再び2点差に詰め寄る。しかし前商もパワープレーから、7番塚越が決め引き離しにかかる。ねばる栄は 1'52 7番志水がパスカットし、自らゴール前でノーマークシュートを決め3-5とする。続けて 2'25 栄6番伊藤がミドルシュートを決め、ついに4-5と1点差まで詰め、前半終了。両チームともパワープレーから確実に得点し、点の奪い合いとなり、第2Pは4-3と栄が勝ち越し、合計でも4-5と肉迫して前半が終了。後半はどんな展開を見せるのか楽しみである。

第3P 5'44 前商セットオフenseから、絶妙のタイミングでパスをうけた6番柳瀬が、鮮やかなハンツーを決める。4'12 栄も7番志水が強烈なディフェンスを受けながらも、フローターからループシュートを決め、再び1点差になった。3'40 勢いづいた栄は、カウンターから2番虎岩が余裕のループシュートを決め、ついに同点に追いつく。負けじと前商も反撃。3'09 セットオフenseから、2番渡辺が右45° からミドルシュートを決める。続けて 2'30 前商6番柳瀬がフローターシュートを決める。第3Pが終了して8-6と前商リード。最終Pに向け、両ベンチの激が飛ぶ。会場も一体となって、勝負の行方を見つめる中、いよいよ最終Pへ…。

第4P 5'50 栄がT. Oをとる。セットオフenseから落ち着いてパスを回し5'24 6番伊藤が見事なロングシュートを決め、1点差に詰める。その後しばらく硬直状態が続き、残り時間が無くなっていく中、'19 栄8番鹿野が鮮やかにミドルシュートを決め、ついに同点に追いつく。そのまま8-8で第4P終了。勝敗の行方は延長戦にもつれ込んだ。

延長前半 両チームともシュートチャンスはあるものの得点には至らず、ゲームが動かない中、残り'01 前商がミドルシュートのこぼれ球を、5番神沢がゴールネットに突き刺し、均衡を破る。前商1点リードで延長後半へ。

延長後半 得点がないまま、後半も残り2秒。栄が2度目のT. O。最後の望みをかけたが、シュートに繋がらず、そのままゲームセット。9-8で前橋商業高校が埼玉栄高校を下し3位の座を勝ち取った。

延長戦にまで至る大接戦であったが、最後まで鉄壁の前商ディフェンスを、栄が崩しきれず、惜しくも惜敗した。両チームとも強力フローターが各々持ち味を出し、得点を重ねていくというダイナミックなゲーム展開であった。泳力・テクニックともに高校生として最高のパフォーマンスを発揮し、観客を魅了した両チームの健闘に大いなる拍手を送りたいものである。

記録者

高山 誠

平成17年度全国高等学校総合体育大会【2005千葉きらめき総体】
 (第73回 日本高等学校選手権水泳競技大会)

水球競技速報用紙

平成 17 年 8 月 20 日
 会場: 東京辰巳国際水泳場

ゲームNo. 20

帽子の色 白 富山北部高校 4	$\left. \begin{array}{r} 1 - 2 \\ 1 - 2 \\ 0 - 3 \\ 2 - 3 \\ \text{EX.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	帽子の色 青 秀明英光高校 10 審判1: 大川和二郎 審判2: 牧田 和彦
-------------------------------------	--	--

戦評

富山は8回目の出場で初めての決勝戦進出。ここまで大垣東を12-4、幕張総合を6-5、準決勝では強豪埼玉栄を7-3で下した。キャプテン武田を中心に個人技に優れたチーム。春のJO決勝の敗戦の借りを返し、初優勝を狙う。秀明英光は福岡工業、津田学園、前橋商業などインターハイ常連の強豪校をすべてダブルスコアで下すという圧倒的な強さで勝ち上がってきた。過去3回決勝に進出し、優勝したのは平成13年の1度だけである。ぜひとも2度目の全国制覇を成し遂げたい。

1P秀明がゴール前退水誘発から6'39"浜田がパワープレーを決めいきなり先制。すかさず富山もキャプテン武田が6'09"にゴール前フローティングから2人のマークを回しこみループを決め同点。序盤から激しい点の取り合いか、と思われたがそこから両チームこう着状態。富山は秀明のお家芸カウンターを封じるためゆっくりとしたペースで攻め、オーバータイム寸前にゴール前の武田にボールを集める。秀明はカウンターを封じられ若松を中心にドライブで相手を切り崩しにかかるが、富山GK日水の好セーブ、自らのシュートミスでなかなか自分たちのペースに持ち込めない。しかし、秀明は1'11"に若松がゴール前、自ら奪取した退水のチャンスをしっかり決める。

2Pなかなかペースをつかめない秀明だが5'56"に再び若松がパワープレーを決め2点差とする。しかし富山はゆっくりと攻める時と、ディフェンスから鋭くカウンターを仕掛ける攻撃とをうまく使い分けて秀明ディフェンスを翻弄する。そして3'25"パワープレーを池上が決めて1点差に詰め寄る。何とかしたい秀明、ベンチから加藤監督の「カウンターだ!」の指示。すると1'31"激しいディフェンスからお家芸のカウンター炸裂。染谷が鋭いバウンドシュートを叩き込みリードを広げる。

3Pここで離されるわけにはいかない富山だが、4'30"、6-5のカウンターで抜け出した大井がシュートを放つが、秀明GK森脇に止められる。逆に秀明は3'53"カットインから抜け出した浜田が、右サイドからループを決め2-5と引き離す。富山は3'25"武田のループシュートがバーに当たり、ゴール前のノーマーク池上の目の前に落ち、シュートするが、秀明GKのセーブで得点にならない。個人技の優れた秀明は、浜田、豊田と続けてミドルを叩き込み、2-7と引き離した。

4P富山は秀明の激しいプレスに思うように攻められない。秀明はパワープレーのチャンスにタイムアウトをとり、確実に決めたいところだが、富山GK日水に止められてしまう。その後も日水の好セーブもあり、両チームこう着状態。しかし、3'35"左サイドから抜け出した浜田、2-1のカウンターから若松がゴールと、またも秀明のカウンター攻撃が炸裂し9-2と試合を決める。一矢報いたい富山は武田が退水を奪うと、そのままパスを受けゴール。続けてパワープレーのチャンスに保田が右0°からゴールを決める。試合も決った残り23"。まだ点を取りたい秀明はタイムアウトをとり、その期待に答え残り16"にカットインから真ん中で抜け出した山口がゴールを決め、この試合終了。

4年ぶり2回目の優勝をかざった秀明、それにしても強かった。今大会4試合とも、圧倒的な強さを見せつけ、すべての試合をダブルスコアで勝利するという、高校生離れしたプレーは観客を魅了した。

高校生が連日熱戦を繰り広げた"2005千葉きらめき総体"はここに幕を閉じた。来年度の開催地、大阪府でも熱き戦いを期待したい。